

利用者意見等の反映	利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・来館者対象のアンケート実施、イベント参加者への事業別アンケートを実施 ・カルチャーサポーターとの意見交換を行い、利用者としての立場から意見をいただく。 改善例: アンケートで要望が多かった喫茶機能について検討を行い、館内休憩コーナーへ飲料自動販売機を設置した。
	その他 クレームは記録し、毎朝のミーティングでの伝達や回覧等で職員の共通認識となるよう努めている。また外部有識者による「文学館運営協議会」を開催している。
その他特記事項	の館の利用のほか、以下のような活動を行った。 〔教育普及事業〕 文学専門講座 5回(189人) 児童生徒文学作品朗読コンクール 42校(100人) 朗読の会 月2回 記念講演会 242人 講座・ワークショップ等 651人 紙芝居ボランティア公演ほか 487人 児童生徒朗読劇 100人 高校文芸部合同による同人誌制作 4校19人

4 平成18年度業務評価

項目	状況説明
管理運営に関する評価	施設設備の管理、危機管理体制、法令遵守など、概ね適正に管理がされている。 ・少ない人員体制ながら適切に管理運営が行われている。 ・平成18年度は、企画展示室(時期によっては全館)を土佐24万石博の関連企画の会場として提供したという特殊事情により、収入確保の取り組みがしづらい面があり、予算時の収入目標には達していない。支出面では、経費節減の努力による成果が認められる。 ・可能ならば、専門職員を増やすなど体制の充実が望まれる。 ・より入館者の視点にたって取り組みを進めてほしい(これから文学の世界に入っていくという展示室の工夫や、子どもにとっても大人にとっても見やすい展示の工夫、説明内容など)。
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	資料の収集・保存、展示・企画事業、調査研究、教育普及事業の各事業において適正な事業の実施が行われた。 ・学芸員が対外的にも信頼され評価されていることが、貴重な資料寄贈につながっている。 ・今後の課題として、資料データをインターネットで提供するなど、データ公開の取り組みを検討するべき。 ・平成18年度は、自前の事業活動を制限して県が進める土佐24万石博関係の企画展示に館全体を提供するなど、観光施策には、大きく貢献した。今後も、本来の文学館活動を通じて、交流人口の拡大などに繋がる取り組みを期待する。 ・常設展示についてはリニューアルの計画があるが、その内容によっては魅力向上につながる。リピーターの確保に向けて取り組んでほしい。 ・今後は、現在対象としている作家の顕彰だけでなく、現在活躍している、あるいはこれからの活躍が期待される県ゆかりの作家にも視点をあてるべき。 ・施設の認知度が低い。今後の広報の充実を期待する。 ・カルチャーサポーターをはじめとする応援団や県内の文学活動者、専門家との連携をより進めてほしい。
総合的な評価	・大人、子どもを問わず県民の文学への関心を高める場としての努力をしている。 ・今後は、本県の文学者の多様性を生かした企画展の開催や全国へ情報発信する取り組みの充実が望まれる。
総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">B</div> <div> <p>・専門性の確保と文学の興味を拡げるといった両面に関して努力をしており評価できる。地味ではあるが、企画展とタイアップした講演会、解説、朗読の集いなど、面白い取り組みを着実にやっている。</p> <p>・高知の文学者の多様性を生かし、「高知の文学館」の独自性を発揮することが課題となる(例えば、顕彰の対象以外のゆかりの作家など現在活躍している方々の紹介や、比較的一般に知られていない鹿持雅澄についての研究と展示を検討するなど)。</p> <p>・展示が一律で見せる工夫に欠ける面があるため、常設展のリニューアルの計画は有効。常時紹介する作家を減らして時期で入替える考えはいいが、展示のない時期の作家資料の提供の仕方に留意が必要と思われる。</p> <p>・リニューアル計画にある「キッズコーナー」の考え方は、県立図書館、市民図書館、子ども図書館など既存施設との違いや文学館ならではの特徴を出すよう求める。</p> <p>・接客対応を含めた来館者へのサービス向上について組織的な対応を進める必要がある。</p> <p>・組織体制の充実については、指定管理者だけの努力ではできない面があるため、県等との協議が必要。</p> </div> </div>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの